

# CASBEE® 京都-新築

# 標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東急ハーフエスタツブ鷹峯G棟	階数	4
建設地	京都府京都市	構造	RC造
用途地域	第一種住居、第二種住居地域	平均居住人員	394 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,640 時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年10月 予定	評価の実施日	2013年5月1日
敷地面積	13,408 m <sup>2</sup>	作成者	杉原 高士
建築面積	3,193 m <sup>2</sup>	確認日	2013年5月29日
延床面積	9,668 m <sup>2</sup>	確認者	山井 英樹

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.0

**Q1 室内環境** Q1のスコア = 3.2

**Q2 サービス性能** Q2のスコア = 2.8

**Q3 室外環境(敷地内)** Q3のスコア = 3.0

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.0

**LR1 エネルギー** LR1のスコア = 3.2

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア = 2.9

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 緑や水盤を中心とした計画として、自然に触れ合う環境と地球環境負荷の低減に取り組んだ。	<b>その他</b> 特に無し	
<b>Q1 室内環境</b> カーテンやブラインド及びペアガラスを採用して、熱負荷低減に配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> 乾式壁工法を採用しフレキシビリティ性の向上に配慮した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 周辺の住宅地に配慮して道路からの距離を50m以上取った計画とした。また周辺の自然と調和した緑化空間を形成した。
<b>LR1 エネルギー</b> 高効率な設備システムを採用している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ODP=0の冷媒を使用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 交通負荷軽減のため、敷地内に十分な駐車スペースを確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される